

平成 27 年 5 月 12 日

報道関係各位

東京都千代田区永田町 2-13-1
株式会社 QLife (キューライフ)

ジェネリックやお薬手帳利用は、県別格差 2 倍

ジェネリック:鹿児島(最高)～徳島(最低)、お薬手帳:大分(最高)～奈良(最低)
～「20 疾患 2 万人患者の服薬実態調査」を性・年代・県別で分析～

月 600 万人が利用する日本最大級の病院検索・医薬品検索・医療情報サイト群ならびに医療者向けサービスを運営する株式会社 QLife (キューライフ / 本社: 東京都千代田区、代表取締役: 山内善行) は、過去 1 年間に医療機関で主要な 20 疾患のいずれかと診断ないし治療を受けた患者 2 万人を対象に、大規模なアドヒアランス (服薬遵守状況) 実態調査を実施した。4 月に公開した疾患タイプ & 疾患名別の分析に続き、性・年代・都道府県別の分析結果を医療者専門サイト『QLifePro』の『研究報告』コーナーに掲載した。詳細な結果内容はこちら⇒

<http://reports.qlifepro.com/>

◆ジェネリック利用意向「積極的に利用したい」 都道府県、性・年代別

最もジェネリックの利用意向が高かったのは鹿児島県で、全国唯一の 70% 超である。一方で最も低かったのが徳島県で、全国唯一の 30% 台であった。ちなみに実際のレセプト集計データでも鹿児島県が 1 位で徳島県が 47 位 (厚労省集計、平成 25 年度) なので、本調査で判明した「患者意向度」と、現場での調剤状況とは一致している。すなわち、患者意向がそのまま実態に反映されているわけで、「後発品にするか否か」は医師や薬剤師側の事情によるものではない可能性が示唆された。

また、男女別では男性が女性を 9.0 ポイント上回り (60.5%)、年代別では、男性は 60 代が最も高く 61.9%、女性は 30 代が最も高く 54.5% だった。

◆お薬手帳使用実態「毎回使用」「ほぼ毎回使用」 都道府県、性・年代別

お薬手帳を「毎回」「ほぼ毎回」使用しているとした回答が最も多かったのは大分県で、患者の 3 人に 2 人が使用している。逆にワースト 1 位だった奈良県は 4 人に 1 人しかお薬手帳を活用していない。

また、男女別では女性が、年代では 70 代以上層の利用率が高かった。

ジェネリック利用意向ベスト5	
鹿児島県	73.3%
島根県	66.7%
山梨県	65.8%
滋賀県	65.0%
石川県	64.1%

ジェネリック利用意向ワースト5	
徳島県	38.8%
和歌山県	44.4%
福井県	48.1%
奈良県	49.3%
鳥取県	50.0%

お薬手帳利用率ベスト5	
大分県	64.0%
青森県	63.9%
宮城県	63.8%
鳥取県	62.1%
福島県	61.9%

お薬手帳利用率ワースト5	
奈良県	24.6%
和歌山県	34.6%
徳島県	35.0%
宮崎県	36.3%
福井県	38.0%



調査対象となった 20 疾患は、骨粗しょう症、脳血管疾患(脳卒中)、緑内障、逆流性食道炎、更年期障害、前立腺肥大症、椎間板ヘルニア、うつ、睡眠障害、禁煙、アトピー性皮膚炎、にきび、花粉症・アレルギー性鼻炎、喘息、高血圧症、高尿酸血症・痛風、脂質異常症、糖尿病、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ。調査内容は服薬継続・離脱の実態把握のほか、医師説明や疾患知識の有無でアドヒアランスはどうかなど、全 41 項目にわたる。ジェネリックの利用意向、お薬手帳の使用実態も含めている。調査回答者は、あえて QLife 会員ではなく第 3 者(複数の大手ネットリサーチ会社登録会員)を利用した。

<株式会社 QLife の会社概要>

会社名 : 株式会社 QLife (キューライフ)

所在地 : 〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-13-1 ボッシュビル赤坂 7F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006 年(平成 18 年)11 月 17 日

事業内容: 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念: 医療と生活者の距離を縮める

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

本件に関するお問い合わせ先:

株式会社 QLife 広報担当 田中

TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp
